

## 「21世紀COEプログラム」(平成14年度採択) 中間評価結果表

機 関 名	岐阜大学	拠点番号	E08
申請分野	学際・複合・新領域		
拠点のプログラム名称 (英訳名)	野生動物の生態と病態からみた環境評価 Evaluation of environmental condition based on ecology and pathology of wild animals		
研究分野及びキーワード	<研究分野：応用獣医学> (野生動物) (生態) (病態) (環境モニタリング) (野生動物医学)		
専攻等名	連合獣医学研究科 獣医学専攻		
事業推進担当者	(拠点リーダー) 坪田 敏男 教授 他 9名		

### ◇拠点形成の目的、必要性・重要性等：大学からの報告書（平成16年1月現在）を抜粋

#### <本拠点がカバーする学問分野について>

本拠点がカバーする学問分野は、野生動物の生態と病態（野生動物医学）からの環境評価である。具体的には、希少野生動物の個体数減少の原因究明とその回復、ヒトや野生動物を脅かす環境汚染物質の侵淫度と生体影響の究明、ヒト - 家畜 - 野生動物間を伝播する感染症の感染環の解明とその予防などである。

#### <本拠点の特色及びその目的等>

21世紀は環境の時代と言われ、野生動物を含む自然環境の重要性が益々認識されてきている。即ち、健康で多様性に富む自然生態系の持続的保全は、人類生存に必須であるとの認識が定着してきた。このような自然環境を健康に維持するために、野生動物の生態と病態からの診断的アプローチがある。この領域（野生動物医学）は新しい学問分野で、今その研究教育の発展が求められており、本COEはその世界レベルでの中核的拠点形成を目的とする。

#### <COEを目指すユニーク性>

本COEは、これまで生態学や環境科学の中で扱われることの多かった（例えば、京大大学生態学研究センターや霊長類研究所、北海道大学大学院地球環境科学研究科、(財)自然環境研究センターなど）野生動物や自然環境を、近年獣医学の中で新しく台頭してきた野生動物医学という学問を通じて、かつ従来の他学問とも連携してアプローチする点が、他とは違うユニークで斬新な点である。

#### <本拠点のCOEとしての重要性・発展性>

これまで日本には野生動物医学を推進する研究教育拠点はなく、本COEにより初めて国内での野生動物医学の研究教育拠点が立ち上がった。即ち、希少野生動物の人工繁殖や野生復帰、環境汚染物質の影響評価、人獣共通感染症の感染環解明など、環境評価につながる研究教育が活発に行われるようになった。本COEの延長線上には、野生動物医科学研究センターの設置があり、独創性および将来性に富む国際的な研究教育拠点の形成となり得る。

#### <本プログラムの事業終了後に期待される研究・教育の成果>

今回のCOEプログラム事業終了後に、岐阜大学では野生動物医学のさらなる拠点形成をめざし、世界レベルでの研究の活性化、大学院教育での専門家の養成、学部生へのジェネラリスト教育が実践され、また地域的なつながりやグローバルな連携を維持して野生動物や自然環境に関する社会問題に対処していくことが可能となる。

#### <背景となる当該研究分野の国内外の現状と動向、期待される研究成果と学術的・社会的意義、波及効果等>

これまで野生動物医学研究教育にいち早く取り組んできた岐阜大学は、我が国の野生動物医学研究教育をリードする存在である。しかしながら、諸外国では既に20年以上も前から国際的な連携のもとに野生動物医学に関する研究教育を展開している。従って、本COEプロジェクトにより立ち遅れていた日本の野生動物医学研究教育拠点を形成し、国内の野生動物保護や環境評価を推進すると共に世界レベルでの飛躍的な発展が期待できる。

機 関 名	岐阜大学	拠点番号	E 0 8
拠点のプログラム名称	野生動物の生態と病態からみた環境評価		

◇ 21世紀COEプログラム委員会における評価

(総括評価)

当初目的を達成するには、下記のコメントに留意し、一層の努力が必要と判断される。

(コメント)

連合大学院の利点をある程度活かし、野生動物から見た環境評価を進める試みとして、一部の面でかなり進展している。

しかし、現在までに明示された業績・結果に関するかぎり、「野生動物病院の建設と運用」に拠点の中心が置かれ、拠点プログラム名称にある「野生動物の生態と病態から見た環境評価」が見事になされているとは、いささか受け取りにくい面もある。獣医学を生物環境学に広げる当初目標の方向を大きく進め、かつ、連合大学院の特徴をもっと具現化させることについて、一層の努力を払われたい。